

# 令和8年度 長崎市立池島中学校 学力向上プラン

令和8年9月1日 池島中学校研究部

Ⅰ 本校教育目標：「『愛顔』で、より良い未来に向かって努力する子供の育成」

[重点目標及び学習面の実践事項]

◎逆境を強みに変える「超・個別最適学習」

～一人一人を大切にした「個別最適な学び」への実践～

「確かな学力の定着に向けた取組」

～得意な分野を伸ばし、苦手な分野を克服する指導～

○学習指導要領に基づいた指導

○「あじさいスタンダード」「長崎県読解力向上プラン」「長崎県授業改善メソッド」の活用/クロームブックを「普段使い」する授業展開

○読書活動の充実

○「読む」「書く」「発表・表現」などの言語活動の充実

○学力調査及び業者テストの分析及び課題解決に向けた働きかけ

## 2 本校の実態

(1) 在籍生徒は2年生に1名であり、教師と1対1の授業を行っている。学習意欲にとぼしく、生活習慣の乱れから授業時間が十分に確保できていない現状がある。

(2) 昨年度より、振り返りを校内研修のテーマとしている。教科間で統一した型の振り返りシートを使用したり、視点を与えてブラッシュアップしたりするなど、振り返りによって学びの力が高まるか検証している。

## 3 校内研究主題と学力向上プラン

(1) 校内研究主題

「『振り返り』により学びに向かう力を高める」

(2) 研究の柱と実践事例(3つのアプローチ)

<授業改善> 対話を通じた「振り返り」の充実

①言語活動の重視

「伝える力(コミュニケーション能力)」を育成し、別の考えに触れることで、自分の理解不足や新たな視点に気づく場を設定する。

②振り返りシートの定着

全教科共通の視点(何ができるようになったか、何が課題か、次はどうしたいか)をもたせたシートを活用し、思考を言語化させる。

<ICT活用> 個別最適な学びの可視化

①Chromebookの日常活用

スプレッドシートやムーブノート等での振り返りの共有を行い、互いの学びから刺激を受ける環境を作る。

## ②Qubena（キュビナ）等の活用

AI 型教材による「個別最適な振り返り」を実施し、自身の習熟度を客観的に把握させる。

<接続> 学校から「自学（家庭学習）」へ

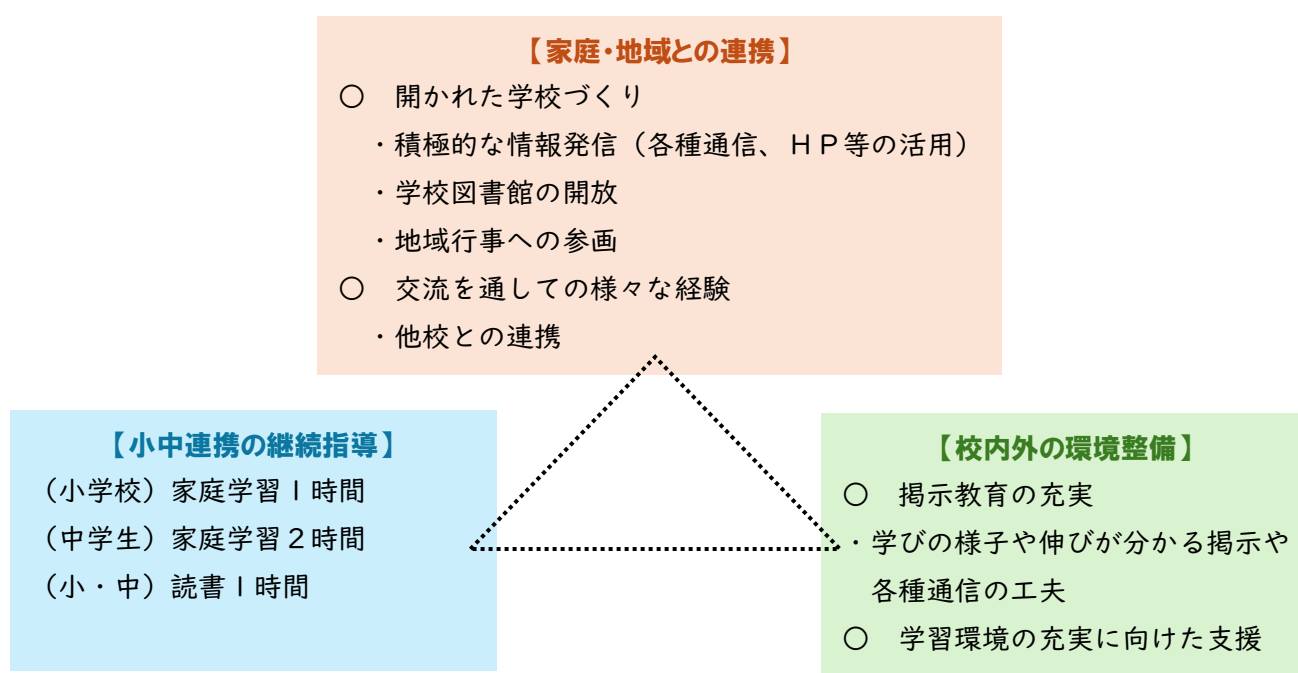
### ①学習の仕方の指導

振り返りで明確になった「自分の課題」を、どう家庭学習で解決するかをセットで指導する。

### ②「振り返り」を宿題へ

授業の終わりの気づきを、その日の自学ノートの起点にする指導を徹底する。

## （３）学力向上プラン



## 4 県学力調査等の分析による今後の課題と改善策

|    | 不正解の問題から読み取れる生徒の傾向                                                                                         | 改善策                                                                                             |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 国語 | 文脈に即して漢字を書くことが苦手である。<br>また、自分の考えを書くことに抵抗感はないが、「他者の発言と結びつけて」「内容の中心が明確になるよう、内容のまとまりを意識して」などの工夫については定着が見られない。 | 毎時間、授業の冒頭で Qubena の漢字ドリルに取り組ませる。条件付きの課題作文に定期的に取り組ませ、与えられた条件に即して考えを表現できるようにする。また作文の際には構成メモも活用する。 |
| 数学 | 問題解決の方法や理由を数学的に説明することにおいて、不十分であることが多い。また、素数の意味や相対度数など、言葉の意味や求め方を理解してはいるものの、単位などへの注意力が欠けている部分が見られる。         | 授業の中で、言葉の意味や定義については、関連する内容を履修する際に既習のものを含めて繰り返し確認を行う。また、その語句を用いての説明を数学的に正しく表現できるように繰り返し指導を行う。    |

